

This Page Is Inserted by IFW Operations
and is not a part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images may include (but are not limited to):

- BLACK BORDERS
- TEXT CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES
- FADED TEXT
- ILLEGIBLE TEXT
- SKEWED/SLANTED IMAGES
- COLORED PHOTOS
- BLACK OR VERY BLACK AND WHITE DARK PHOTOS
- GRAY SCALE DOCUMENTS

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

**As rescanning documents *will not* correct images,
please do not report the images to the
Image Problems Mailbox.**

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 59-130141
(43)Date of publication of application : 26.07.1984

(51)Int.Cl.

A23J 1/00

(21)Application number : 58-236375

(71)Applicant : Q P CORP

(22)Date of filing : 16.12.1983

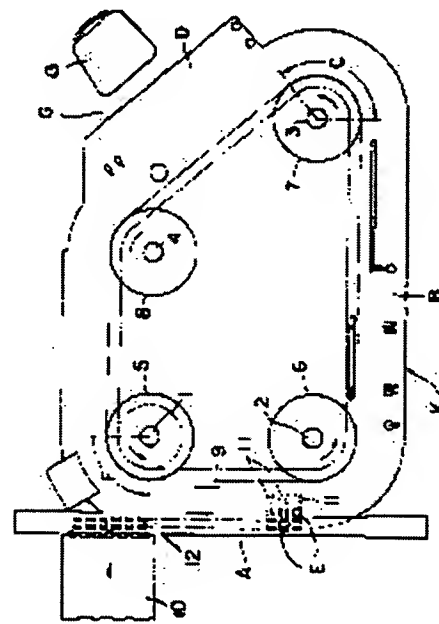
(72)Inventor : FUJIMURA HAJIME
SOTOMA HIROICHI
KOKKYO HIROSHI
HATA MASATO
INOUE EISUKE

(54) AUTOMATIC EGG BREAKING MACHINE

(57)Abstract:

PURPOSE: To utilize foundation space effectively, by providing efficiently zones suitable for carrying out all operations ranging from delivery of eggs, breaking them, recovery of the yellow and the white, removal and recovery of the residue egg liquid, examination, and removal of egg shells.

CONSTITUTION: The conveyor K of an egg breaking machine wound round the shafts 1W4, constructed in an endless movable way, is set; the egg breaking mechanisms 11 are arranged and supported on the conveyor K at given intervals, the delivery zone A for eggs with shells is made at the first section between the two corners of the conveyor K, the zone B for recovery of the yellow and the white is prepared at the second section between the two corners adjoining the first section, the zone C for removing the residue egg liquid in the egg shells is made on the rotary section of the shaft of the corner in the downstream side of the second section, the examination zone D for the yellow and the white recovered is set at the third section between the following two corners including this corner part, and the zone F for removing unbroken eggs and egg shells is prepared at the fourth section between the following corners. The rotary section at the corner in the downstream side of the zone B is made in an acute angle, while the corner in the downstream side of the zone D is formed in an obtuse angle.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the
examiner's decision of rejection or application
converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of
rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's
decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

公開実用 昭和59— 130141

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑭ 実用新案出願公開

⑯ 公開実用新案公報 (U)

昭59—130141

① Int. Cl.³

識別記号

庁内整理番号

② 公開 昭和59年(1984)9月1日

G 06 F 3/16

7218—5 B

G 10 L 1/00

7350—5 D

審査請求 未請求

(全 頁)

④ 電子計算機

大阪市阿倍野区長池町22番22号

シャープ株式会社内

⑤ 実 願 昭58—23304

⑦ 出 願 人 シャープ株式会社

⑥ 出 願 昭58(1983)2月18日

大阪市阿倍野区長池町22番22号

⑧ 考 案 者 西村幸祐

⑨ 代 理 人 弁理士 福士愛彦 外2名

明 細 書

1. 考案の名称

電子計算機

2. 実用新案登録請求の範囲

1. 中央演算処理装置に音声認識手段と音声合成手段を結合し、さらに前記音声認識手段には骨伝導ピックアップ型の入力手段を結合し、前記音声合成手段には骨伝導ピックアップ型の出力手段を結合してなることを特徴とする電子計算機。

3. 考案の詳細な説明

<技術分野>

本考案は入出力手段に特徴を有する電子計算機に関するものである。

<従来技術>

従来、電子計算機の入出力手段としてはキーボード、表示装置、プリンター、スピーカなどがあり、さらに音声認識技術の向上に伴なってマイクロフォンによる音声入力も行なえるようになってきている。

(1)

462

特に音声入力の場合はキーボードを使用しないから、入力操作が正確且つ迅速に行なえるという大きな特徴がある反面、マイクロフォンが周囲の雑音を拾うために高騒音環境下では使用できないという欠点があった。また、このような状態ではスピーカによる音声出力も非常に聞き取りにくい等騒音のひどいところでは使うことができなかった。

<目 的>

本考案はかかる従来の欠点に鑑みて成されたもので、高騒音環境下でも音声による入出力が可能な電子計算機を提供せんとするものである。

<実施例>

以下図にもとづいて本考案を詳細に説明する。
第1図は本考案に係る電子計算機を搭載したメガネフレームの例を示すもので、サイドフレーム1及び2には電子計算機の電子回路ユニット3が内蔵されている。さらに一方のサイドフレーム1の端部には音声入力手段として骨伝導ピックアップ型の超小型マイクロフォン4が埋設され、他方の

サイドフレーム 2 の端部には音声出力手段として骨伝導ピックアップ型の超小型スピーカ 5 が埋設されている。

骨伝導ピックアップ型のマイクロフォン 4 は、発声音が頭がい骨などの骨を伝わり、外耳道壁が振動するとき、この振動をバイモルフ型圧電素子を使った超小型マイクで直接ひろい、電気信号に変える。このため、外部の音には影響されず、声だけをひろうことができる。さらにこのマイクロフォンは骨伝導ピックアップ型のスピーカ 5 としても機能する。このようなマイクロフォン、スピーカはすでに市販されているのでここでの詳細な説明を省く。

次に第 2 図にもとづいてブロック回路図を説明する。

中央演算処理装置 CPU にはアルゴリズムを格納したリードオンリメモリ ROM₁、リードライトメモリ RAM がある。この CPU には音声認識装置 V. R が結合され、該 V. R にはアンプ AMP₁ を介して前記骨伝導ピックアップ型のマイクロフ

(3)

ォン4が結合されている。

さらに、前記CPUには音声データを格納したリードオンリメモリROM₂を有する音声合成装置VSが結合され、該VSにはアンプAMP₂を介して前記骨伝導ピックアップ型のスピーカ5が結合されて構成されている。

かかる構成によれば、発声によって生じた頭がい骨の振動は骨伝導ピックアップ型の超小型マイクロフォン4でひろわれ、アンプAMP₁で増幅されてのち音声認識装置V.Rを介して前記CPUに送られて入力情報として認識される。

そして、CPUでこの入力情報に関する所定の演算処理が実行され、その結果は音声合成器VSに送られてROM₂の音声データで合成され、骨伝導ピックアップ型のスピーカ5で出力される。この出力は頭がい骨を振動させ、これによりこの出力内容を認識し得るものとなっている。依って、音声の入出力の際周囲の騒音に全く影響されない。

<効 果>

以上詳述した様に本考案の電子計算機は骨伝導

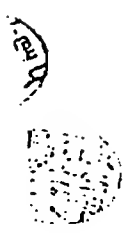
ピックアップ型の入出力手段を具えているから、周囲の騒音に全く影響されずに正確な音声入力が可能となるとともに、常に鮮明に音声出力の内容を認識することが出来る。

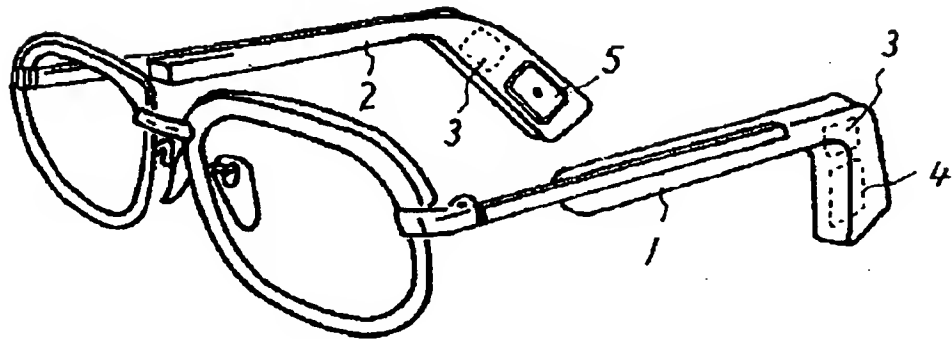
4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案の電子計算機を搭載したメガネフレーム、第2図は同計算機のブロック回路図である。

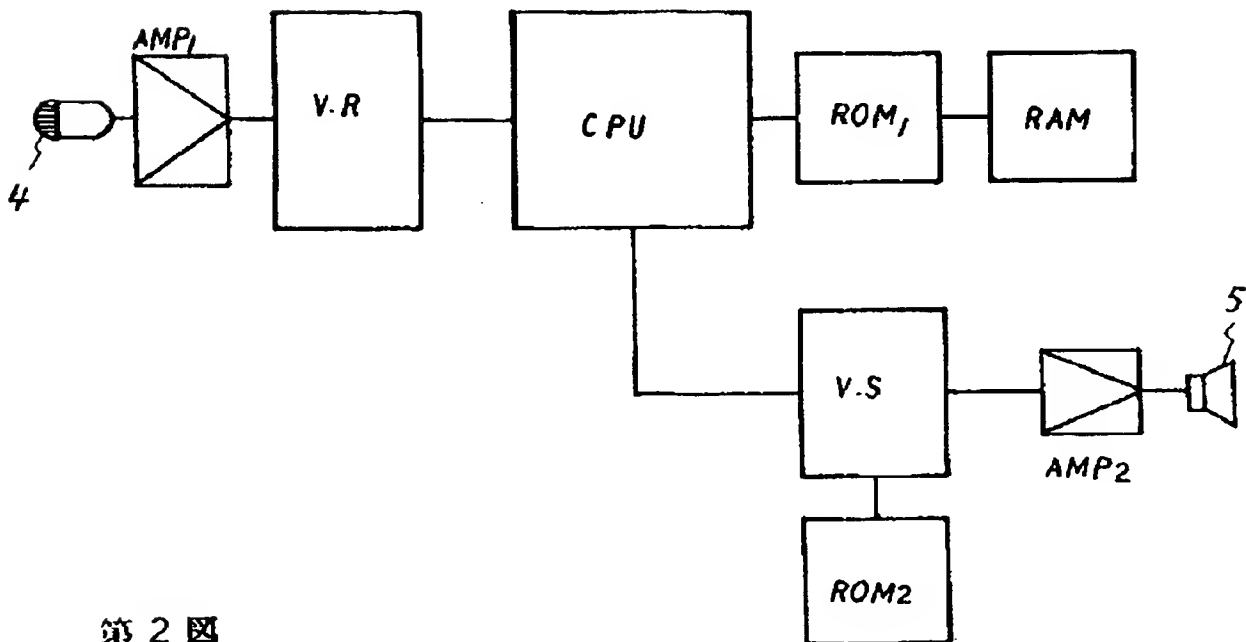
1、2はサイドフレーム、3は電子回路ユニット、4はマイクrophon、5はスピーカ、CPUは中央演算処理装置、V.Rは音声認識装置、V.Sは音声合成装置。

代理人 弁理士 福 士 愛 彦（他2名）





第 1 図



第 2 図

467

出願人 シャープ株式会社
代理人 福士愛彦(通2名)

実開59-130141